

令和元年第10回教育委員会議臨時会 会議録

1. 開催日時等 令和元年12月26日(木)  
午前9時00分開会 午後4時20分閉会
2. 開催場所 ニセコ町総合体育館会議室
3. 出席委員等 教 育 長 菊 地 博  
1 番 委 員 下 田 伸 一  
2 番 委 員 越 湖 明 美  
3 番 委 員 萬 谷 政 博  
4 番 委 員 大 橋 理 絵
4. 欠席委員 なし
5. 事務局出席者 学校教育課長 前 原 功 治  
町民学習課長 佐 藤 寛 樹  
学校給食センター長 富 永 匡  
幼児センター長 酒 井 葉 子  
学校教育課総務係長 工 藤 亜津子
6. 会議録署名委員 1 番 委 員 下 田 伸 一
7. 議 件

会議録署名委員の指名について

教育長の報告

報告第1号 ニセコ町教育委員会臨時職員の採用について

報告第2号 交通違反等の報告について

報告第3号 令和元年度ニセコ町教育費予算の補正について

報告第4号 令和2年度(2020年度)当初教職員等人事異動希望状況について

報告第5号 令和2年度(2020年度)学校給食費の答申について

報告第6号 令和2年度(2020年度)における小中学校への就学支援について

議案第1号 令和元年度(2019年度)要保護及び準要保護児童生徒の認定について

議案第2号 ニセコ町特別支援教育講師及び特別支援教育支援員取扱規則の制定について

議案第3号 ニセコ町立学校における「働き方改革」行動計画について

議案第4号 ニセコ町立学校における「部活動の在り方に関する方針」について

議案第5号 令和2年度（2020年度）ニセコ町教育費予算（案）について

※報告第6号及び議案第1号は秘密会の議事として議決し非公開。

8. 議事の概要

教育長：定刻となりましたので、ただ今から第10回教育委員会議臨時会を開催いたします。

本日の議事日程は、予めお配りした議事日程表のとおりです。

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

会議規則第12条第5項の規定により、「1番 下田委員」を指名いたします。

次に「日程第2 教育長の報告」について、私から説明いたします。

・・・教育長から教育長の報告について説明・・・

教育長：教育長の報告の説明が終わりました。

それでは、質疑を行います。質疑はありませんか。

・・・質疑なしの声・・・

教育長：以上で報告済みといたします。

教育長：「日程第3 報告第1号 ニセコ町教育委員会臨時職員の採用について」を議題といたします。説明をお願いします。

・・・学校給食センター長が議案を読み上げ、内容説明・・・

教育長：「報告第1号」の説明が終わりました。

それでは、質疑を行いません。質疑はありませんか。

・・・質疑なしの声・・・

教育長：以上で報告済みといたします。

教育長：「日程第4 報告第2号 交通違反等の報告について」を議題といたします。説明をお願いします。

・・・学校教育課長が議案を読み上げ、内容説明・・・

教育長：「報告第2号」の説明が終わりました。

それでは、質疑を行いません。質疑はありませんか。

・・・質疑なしの声・・・

教育長：以上で報告済みといたします。

教育長：「日程第5 報告第3号 令和元年度ニセコ町教育費予算の補正について」を議題といたします。説明をお願いします。

・・・学校教育課長が議案を読み上げ、各管理職が内容説明・・・

教育長：「報告第3号」の説明が終わりました。

それでは、質疑を行いません。質疑はありませんか。

・・・質疑なしの声・・・

教育長：以上で報告済みといたします。

教育長：「日程第6 報告第4号 令和2年度当初教職員等人事異動希望状況について」を議題といたします。説明をお願いします。

・・・学校教育課長が議案を読み上げ、内容説明（教育長から補足説明）・・・

教育長：「報告第4号」の説明が終わりました。

それでは、質疑を行ないます。質疑はありませんか。

・・・質疑なしの声・・・

教育長：以上で報告済みといたします。

教育長：「日程第7 報告第5号 令和2年度学校給食費の答申について」を議題といたします。説明をお願いします。

・・・給食センター長が議案を読み上げ、内容説明・・・

教育長：「報告第5号」の説明が終わりました。

それでは、質疑を行ないます。質疑はありませんか。

・・・質疑なしの声・・・

教育長：以上で報告済みといたします。

教育長：「日程第8 報告第6号 令和2年度における小中学校への就学支援について」及び「日程第9 議案第1号 令和元年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について」の2件は、個人情報の取扱いにかかわる内容であることから、今回の教育委員会議での議事を「秘密会」とすることを発議いたします。

本件について、討論を行います。

反対、または賛成の討論はありますか。

・・・(討論なしの声)・・・

それでは採決いたします。

「日程第8 報告第6号 令和2年度における小中学校への就学支援について」及び「日程第9 議案第1号 令和元年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について」の2件は、「秘密会」とすることにご異議ありませんか。

・・・(異議なしの声)・・・

異議なしと認めます。よって、会議規則第6条の規定により、「報告第6号」及び「議案第1号」の議事は、「秘密会」とすることに決しました。

・・・秘密会審議・・・

教育長：これで「秘密会」の議事は終わりましたので、これより議事は公開とします。

教育長：「日程第10 議案第2号 ニセコ町特別支援教育講師及び特別支援教育支援員取扱規則の制定について」を議題といたします。説明をお願いします。

・・・学校教育課長が議案を読み上げ、内容説明(教育長補足)・・・

教育長：「議案第2号」の説明が終わりました。

それでは、質疑を行ないます。質疑はありませんか。

大橋委員：特別支援の児童で情緒面や知的面、言語面があると思いますが、その子によって対応が変わりますか。

学校教育課長：その子の状態によって、制度上クラス分けをして支援するのは支援学級の方ですが、普通教室にいる子で、支援学級まではいかないけれども、ではどんな支援が必要なのかということところは、支援委員会を開催しても難しいところです。普通教室にいる子で支援員が対応する子どもたちは様々で、生活支援のような部分もあるし、学習面であったりもするので、先生ではない人が支援員となった場合、どこまでできるのかという部分はどうしても切り分けが必要になると思います。

そういうことで、講師と支援員という2本立てでパートナーとしてチームで仕事をしてもらいたいということです。

**教育長**：普通学級の中でも、学習面は落ち着いた環境ではできるが、その子の持っている特性で落ち着きがなくなるとか、あるいは学習障害ということで、障害的に国語はできるが算数はできないというところが発達障害としてあります。特別支援までの措置にはならないけれども、普通学級の40人の中でも2～3人はいて、トータルすると何十人かいるということです。

どのように関わって良いのかということは、担任の先生とチームになって打ち合わせをしながらサポートすることになります。

**越湖委員**：時間外に勤務は命じないものとするという標記がありますが、進めていくうえで先生たちとの話し合いを密にすると、必然的に時間外が増えていくような気はしますが。

**教育長**：当然打ち合わせは時間内です。実際に教室に入る時間と、打合せ等を含めて勤務時間として考えます。

**下田委員**：これとは別に、それ以外の普通の先生のサポート業務や、そういった方々の講習等もありますか。有償で先生のサポート業務ができる枠もあると良いと思います。先生方が忙しすぎるので、特別支援に限らず、もし人材がいればと思います。

**学校教育課長**：サポートティーチャー制度という北海道の制度がありまして、既に配置されている学校もありますが、どこも人が集まらないということが実態で、道で募集をして任用をしますが、人集めは地域でお願いしますということになっているので、時給の関係やフルタイムではなくなったりすると金額的にかなり低い状況にありますので、そのマッチングが都市部以外では難しいのが実態です。

**教育長**：働き方改革の観点からいうと、その他の部分で先生方をサポートするということが制度としてはできていますが、人材がどれだけいるのかということが課題にはなっています。今後、こういった制度も積極的に活用していかなければいけないと思います。

**教育長**：他に質疑はありませんか。

・・・質疑なしの声・・・

**教育長**：以上で質疑を打ち切ります。

「日程第10 議案第2号 ニセコ町特別支援教育講師及び特別支援教育支援員取扱規則の制定について」は、提案のとおりとすることに異議ございませんか。

・・・(異議なしの声)・・・

**教育長**：異議なしと認め、「議案第2号」は、原案のとおり決しました。

**教育長**：「日程第11 議案第3号 ニセコ町立学校における「働き方改革」行動計画について」を議題といたします。説明をお願いします。

・・・学校教育課長が議案を読み上げ、内容説明(教育長補足)・・・

**教育長**：「議案第3号」の説明が終わりました。

それでは、質疑を行いません。質疑はありませんか。

**越湖委員**：頭を抱える状況なのに、働き方改革で時間内にやりなさいと言われている中で、例題として提示されている対策はありますか。

**教育長**：例題としてとか、研修で提示されている対策はありますが、すぐ目に見える効果があるのかという部分もあります。今回、タイムレコーダーを活用して、教育委員

会としては、ある程度の実態を把握する意味もありますが、教員自身の意識も変わるという効果もあるのではないかと思います。

**越湖委員**：実態として、早めに出勤した場合でも、他の先生たちが来た頃に記録を開始するという可能性もあると思います。

**教育長**：退勤の記録をしても、その後は自主的に残っているということもよく言われます。忘れるということもありますので、どんな方法をとっても100%正確ではないと思います。

**下田委員**：現実的に働く時間を抑えなさいということではあるけれども、それをするには人がいないということで、結局超過してしまう現実があると思います。そこでICTと言うと思いますが、なかなか難しいことだと思います。

**教育長**：いろんなところで、工夫しながら学校を応援する体制を作っていくって、仕事を増やすのではなく、みんなでやっていければと思います。

**教育長**：他に質疑はありませんか。

・・・質疑なしの声・・・

**教育長**：以上で質疑を打ち切ります。

「日程第11 議案第3号 ニセコ町立学校における「働き方改革」行動計画について」は、提案のとおりとすることに異議ございませんか。

・・・(異議なしの声)・・・

**教育長**：異議なしと認め、「議案第3号」は、原案のとおり決しました。

**教育長**：「日程第12 議案第4号 ニセコ町立学校における「部活動の在り方に関する方針」について」を議題といたします。説明をお願いします。

・・・学校教育課長が議案を読み上げ、内容説明・・・

**教育長**：「議案第4号」の説明が終わりました。

それでは、質疑を行いません。質疑はありませんか。

・・・質疑なしの声・・・

**越湖委員**：東川町が外部人材でスポーツ登録をしているところから派遣をしてもらっているというお話がありましたが、そのリストから要請するとかの手立てはないですか。

**教育長**：本町では手挙げをしたことはないですが、東川町ではSEAスポーツ国際交流員という、スポーツの分野における国際交流員のJET制度を利用しています。

**学校教育課長**：顧問になるというよりは、あくまでもサポートです。

**教育長**：地域おこし協力隊については、部活の顧問というよりは、地域のスポーツを支援する人材ということで、町民学習課でもここ何年か要望はしていますが、残念ながらいない状況です。

**町民学習課長**：関連した取り組みとして、中学校の野球部と少年団を連携してコーチングをしようという動きをしていて、ニセコ中学校の先生と野球少年団の方と話を進めているところです。連携した指導と接続、中学校の部員の確保も課題となっていて、単独チームができないとモチベーションが上がらないということもありますので、打ち合わせをした中で準備をしているところです。発展的には、少年団のコーチが中学校の外部コーチになることもあり得るので、そうなる働き方改革につながるのかと思います。待っていても進まないの、今いる人材を活用してはというところです。また、サッカーについては、中学校にはサッカー部がないので作っ

てほしいという意見もあるので、その部分も含め地域おこし協力隊を要請しているところですが、なかなかいないということなので、今のサッカー少年団のコーチが中学校の外部コーチになるということができれば、連携もできるし現実味を帯びてくるのではないかと思います。

**教育長**：制度自体はできつつあります。外部コーチという存在から部活動指導員制度というのがありまして、外部人材も監督になれるし引率もできるし当然責任も生じるわけで、だからこそ報酬も出すという制度ができたので、問題は人材ということになります。

**下田委員**：どこにどれだけの人が必要なのか、どうすれば確保できるのかというプロジェクト的な動きにすれば良いと思います。スポーツの面においては、例えばアスリートのその後のキャリアサポートとしてアプローチするとか、スポーツ指導員をしていただきながら、教室にもサポートティーチャーみたいな感じで行ってもらいたいこともあるかと思います。

**町民学習課長**：原課で話をしているのは、教育大学にアクションを起こすとか、メディアを通じたサポートもあるようです。ビデオを見てコーチングするというスタイルもあるようですが臨場感はないです。スポーツをやっている先生が顧問として来ることはなかなか難しいので、先生も部をマネジメントするのは大変だということもありまして、一緒にビデオを見て勉強して、練習した結果を提出するとビデオで返って来るというようなこともあります。また、以前、教育局の方が来た時に、要望として、教職員の採用を希望しているリストの中で、スポーツをやる方を紹介してもらえないとか、ニセコ町でスポーツをやる人を探しているという情報提供をするだとか、改めてリストを作らなくても一定程度は動けば確保できるとは思っていますので、道教委と連携していければと思っています。

**下田委員**：協力隊の制度よりは、継続性があるかと思います。

**町民学習課長**：事業所の理解をしていただかなければいけなくて、出たいけど仕事もあるので、該当する方が出てきたら企業にも町としてアプローチをして土台作りもしていかなければならないと思います。

**教育長**：他に質疑はありませんか。

・・・質疑なしの声・・・

**教育長**：以上で質疑を打ち切ります。

「日程第12 議案第4号 ニセコ町立学校における「部活動の在り方に関する方針」について」は、提案のとおりとすることに異議ございませんか。

・・・(異議なしの声)・・・

**教育長**：異議なしと認め、「議案第4号」は、原案のとおり決しました。

(休憩 10時50分～11時00分)

**教育長**：それでは、「日程第13 議案第5号 令和2年度ニセコ町教育費予算(案)について」を議題といたします。事務局から提案理由の説明をお願いします。

・・・学校教育課長が議案を読み上げ、担当課係長等が内容説明・・・

【学校教育課】

①総務係

**越湖委員**：寿命を考えて工事費を計上していないということですが、他に修繕に対応でき

る経費はありますか。

**総務係長**：大きな工事は計上していませんが、修繕費は計上しています。

**下田委員**：先進地視察について詳細をお願いします。

**学校教育課長**：まだ時期は決まっていません。今回選定した地域は、探求する授業で地域のことを深掘りする形態を組まれている町なので、実際に現場が見られて先生たちが行ける時期ということで、今後調整していきたいと思います。

## ②学校教育係

**下田委員**：小中学校に扇風機が計上されていますが、加湿器の要望はありましたか。

**学校教育係長**：現在のところは、暑さ対策の部分なので要望はないです。

**下田委員**：近藤小学校は加湿器があったように思いますが、教育環境整備の関係で他には差はありませんか。

**教育長**：それぞれの小学校において違いはあると思いますが、近藤小学校では、何年か前に特別支援学級について予算付けをして設置をしたことがあります。加湿器は各教室に設置するとなれば、広さ的にもかなり大きな物を入れなければいけないと思います。今回の予算計上で夏の環境は整備していきたいと思っています。

**教育長**：近藤小学校の入学児童は12名になっているが。

**学校教育係長**：あくまでも住民基本台帳上は12名です。

**教育長**：来年度の教室の実施設計を組んでいます。令和4年に来年入学してくる子が3年生になって複式学級になります。1、2年生の時は単式で大丈夫ですが、そうなった時に広い教室が必要になります。また、途中で増えると状況も変わります。

**越湖委員**：実際に近藤小学校の増築の際の場所は決まっていますか。

**教育長**：これから検討になります。

## ③高校教育係

**下田委員**：タブレットを3台購入するということですが、学校内Wi-Fi環境の整備は今回はなしで、町民センター等で使えるようなWi-Fiモデルということですか。

**高校教育係長**：Wi-Fi環境下であれば使えますが、学校の中では撮影した動画等の編集作業を行うということで考えていますので、特にWi-Fi環境を整備する予定はありません。

(休憩 12時10分～13時00分)

## 【給食センター】

**下田委員**：今回の工事で概ね増加する部分については、吸収できるということでしょうか。

**学校給食センター長**：現在の施設の中でも3セットまでは大丈夫で、工事をすることによってプラス5セットの、合計8セット8クラス分までが増えても対応が可能になります。先程学校教育課からも今後の児童推計について説明がありましたが、令和3年をピークとして想定しています。転入の数が未知数なことと、町の政策として住宅を増やそうということがあるので、住宅が増えることによって計画が崩れることもあります。5セット分の増は吸収できると思います。これ以上大幅に増えると、給食の提供自体ができなくなるので、そうなるとご飯だけは外注にする等の対応もありますので、その場合はみなさんにお諮りをして検討をしたいと思います。

**下田委員**：そのプランでいくと、増改築は今回で終了ですか。

学校給食センター長：今回で大丈夫ということの計画になっています。

下田委員：新聞に掲載された記事の取材の時の雰囲気はどのような感じでしたか。

学校給食センター長：1月以上前に突然電話が来まして、給食の提供というよりは置く場所がないので広げるということで説明はしましたが、その他にニセコの人口はなぜ増えているのかという雑談的な電話でした。その後近藤小学校の校長先生等と話をし、あの記事ができたと思います。

#### 【町民学習課】

##### ① 有島記念館係

下田委員：公園施設等維持管理経費の中で、景観上問題のある親水公園噴水設備についての今後のプランを教えてください。

有島記念館係長：3～4年前に、撤去する場合の経費の見積もりをとったことがあって、その際には500万円を提示されました。石や配管の撤去と、地下に噴水の設備が埋まっているので高額になるようですが、いろいろ工夫するとそこまでかからないのではないかとプランも出ていますので、いずれは景観にマッチしたようにできればと思っています。共進会場の移転先としての声もあるようですがまだわかりません。

下田委員：そのままの状態にしておいても、環境負荷等はないですか。

有島記念館係長：ないと思います。

下田委員：あと50年すれば産業遺産になるかもしれません。

町民学習課長：公園で水を出していましたが、コストがかかるということでやめてしまいました。水は循環させないと腐ってしまうので改造しようとするとう莫大な費用がかかるので、そのままの状態になっているところです。それを撤去するとなると、石や廃材の運搬費に相当な金額がかかるということです。共進会場の移設の話は確定していない部分もありますが、工事や撤去費をそれらと絡めてというところも考えましたが、まだ具体的なことは決まっていない状態です。

下田委員：羊牧舎も同様ですか。

有島記念館係長：共進会場の移設の件と同様に進んでいない状態です。

下田委員：ニセコエクスプレスのその後の町民理解はどうですか。

有島記念館係長：何度か、まちづくり懇談会ということで有島地区や町全体ということで中央地区でも開催をしていますが、ご理解いただいたと考えております。

越湖委員：枕木工事で枕木を新しくした場合、どのくらいの耐久性や年数がもちますか。

有島記念館係長：メンテナンスをすれば、50年くらいはもつと思いますが、約25年使われていなくて、その間道路からロータリーで石や土が飛んでいて枕木が土に埋まっていたので、その埋まっていた部分の枕木が腐ってしまったということです。

##### ② 町民学習係

越湖委員：ブックフェスティバルの配送料の内容を教えてください。

町民学習係長：ブックフェスティバルを小学校で毎年行っていて、あそぶっくの方が中心になってやっていますが、北海道立図書館から本を借りると30箱程が小学校に届きます。そこから、子どもたちがその場で借りることになりますが、そこで残った本は道立図書館の負担で引き取ってくれます。それと、子どもたちが借りて戻ってきた本が15～16箱程度になりますが、それはこちらの経費で郵送するということです。

**越湖委員**：あそぶっくの方でも道立図書館に定期的にまとめて郵送していますが、そことは一緒にできないですか。

**町民学習係長**：一括貸し出しはあそぶっくで対応してもらっているのですが、別の扱いになります。最近は運送業者も忙しいようでなかなか対応が難しい時もあるので、先日は公用車で16～17箱を直接持っていきました。

**下田委員**：公営塾の関係ですが、長期休業子ども支援活動講師やみらいへの後押し講師のあたりの人選は決まっていますか。

**町民学習係長**：検討中です。

**下田委員**：これは視察で行った白馬高校しろま学舎のイメージですか。

**教育長**：現在持っているイメージとしては、学校教育課長と町民学習課長と私で構想づくりをしているところですが、開設構成については白馬高校のように、いろいろな経験を積んできた大人が、中学生や高校生とディスカッションをしたり対話をしたり思いを聞いたり、場合によっては学習支援をしたり等の講座を年間通して20回くらいもってはどうかと考えています。白馬高校は若い世代の講師の方が、子どもたちと将来について語るという感じだったかと思います。そこを大人でやってみようというのが1つの流れとしてあります。

もう1つは、小学生の主に4年生以上の高学年を対象にした、放課後や長期休業中に立ち寄って、宿題や課題をやったりすることに大人が関わっていくということです。

3つ目の柱として、いろんな社会体験活動ということで考えています。

**下田委員**：プロパーの方が1人いるような感じですか。

**教育長**：その方にいろいろなオペレーションをしてもらおうということで、今回予算を計上しています。

**下田委員**：どこかに場所を設置する考えですか。

**教育長**：場所は体育館や町民センターを使うということなると思います。体験活動については、外になると思います。1年間、まずはスタートをしてみるといろいろな課題も見えてくると思うので、そこを改善していけたらと思っています。講師については、できるだけ有償ではなく、コミュニティスクールでも学校支援ボランティアの登録をしてもらいますので、その方をお願いをしたり、社会体験については町民学習課の職員などで対応するようなイメージです。

### ③ スポーツ係

**下田委員**：総合体育館の抜本的改修を見据えた検討ということですが、例えば近藤小学校の体育館であったり、ニセコ高校の体育館であったり、今の少年団等の体育館の利用状況はわかりますか。

**町民学習課長**：高校の体育館の利用状況については、バレーボール少年団が一部使用しているということです。使い勝手の面では、時間の制約と暖房料が実費でかかるということがあるので、担当としましては、せっかく建てたので第二体育館のような使い方ができないかと思っています。時間帯も最低でも午後10時までは使えるようにしてほしいと思っています。仕事が終わって準備をして午後8時から使用する方もいて、実際にプレーをして後片付けをするとすると、午後9時の終了だとすぐに終わってしまいますということになるので、体育館の使用について検討が必要になると思います。

下田委員：現在は総合体育館に偏っている感じがあるかと思います。小学校や高校へもう少しうまく分散させたり、バスケットゴールが今回補修で予算計上されていますが、ゴールを設置してやっていることによって床も傷んでいるというようなので、高校に吊り下げ式のバスケットゴールがあるので、高校を使用できないのかとか、時間の面も含めてうまく調整できればと思っています。

教育長：下田委員がおっしゃるとおりで、高校については利用度が少ない状況です。あまり周知もされていない部分もあったり、今のところの決まりでは、曜日の制約や時間が短いということもあるので、所管する高校係長には、使いやすいようにルール改正をするように指示をしています。来年度あたりには使い勝手が良い様に改善したいと思っています。

#### ④ 幼児センター

教育長：間仕切りのイメージは。

事務係：カウンターの上は全てガラスで仕切る感じで、一部窓をつけます。

萬谷委員：扇風機の設置はどこですか。

子育て支援係長：壁の高いところに備え付けです。

教育長：幼児センターも設置するのか。

事務係：幼児センターも各部屋とホールにつける予定です。

下田委員：午睡用ベッドはポピュラーですか。

保育係長：新しい施設はだいたい導入しているようです。

幼児センター長：全部はわかりませんが、倶知安や寿都は導入しています。

下田委員：間仕切りにも関連しますが、情報管理の面で不具合等実際にありましたか。

事務係：打ち合わせをしている時に、入ってきてしまう方はいます。

幼児センター長：ドアがないので、先生に用事がある時に中に入ってきてしまうことがあったり、おひさまもこれまで午睡中は開けていませんでしたが、今はカーテンをつけてオープンにしているので、その間に会議をするとすると、できるだけ声を小さくして個人情報のものは話さないようにという気遣いをしているので、壁があればと思います。

下田委員：個人的には開放感があって良いとは思っていましたが、今の状態では中に入ってしまうですね。

幼児センター長：子どもも入ってきてしまいます。

下田委員：今も対策はしていますか。

保育係長：立て看板をした時もありますが、特に文書での周知はありません。

下田委員：例えばカメラみたいな物があると、お互いを守ることにもつながると思いますが、検討としてありますか。

教育長：今回の議会で、町内において防犯カメラを設置してはどうかということが出ました。どこまで可能かわかりませんが、教育委員会には学校施設でカメラが必要な箇所があれば出してほしいと町長から言われていまして、まだ各学校には周知していませんが、幼児センターも同様と思っています。下田委員のご指摘は中の設置ですか。

下田委員：安全管理のうえでも、カメラがあった方が憶測も発生しないので、プライバシーの問題はありますが、いろんな意味で良いと思いました。

教育長：子どもを守るという観点からは、最低限考えた方が良いと思います。

**越湖委員**：透明な感じで良いと思いますが、開放感があつて良かったというイメージからすると、ドアを丸い感じにするとか、閉鎖的になるようにするよりは、かわいい感じにしていただければと思います。

**幼児センター長**：工夫していきたいと思います。その他に、壁があることによって、災害があつた時の暖房が落ちた場合等に職員室で仕事をする際に、中だけの暖房で事務や対応ができるということも想定しています。

**教育長**：「議案第5号」の提案理由の説明が終わりました。

それではこれまでの説明を通した総括質疑を行います。

質疑はありませんか。

・・・(質疑なしの声)・・・

**教育長**：以上で質疑を打ち切ります。

「日程第13 議案第5号 令和2年度ニセコ町教育費予算(案)について」は、提案のとおりとすることに異議ございませんか。

・・・(異議なしの声)・・・

**教育長**：異議なしと認め、「議案第5号」は、原案のとおり決しました。

**教育長**：「日程第14 その他、説明・協議事項」についてです。

何かございますか。

・・・(学校教育課長からニセコ高校の振興について、学校ICTについて説明)・・・

#### ○ニセコ高校の振興について

**越湖委員**：生徒を取り合うのではなくということですが、他の近隣町村の学校同士が集まって話し合うことはないでしょうか。

**教育長**：あり得ないと思います。

**越湖委員**：ニセコ高校も2つのコースを国際化一本にしていくべきではとは思いますが、ラベンダーの開発等の発表を聞いたりすると、もっとやるべきことはあると思うし、他の町村がやっていることでも自負することもあると思います。

**教育長**：倶知安高校、蘭越高校、倶知安農高の設置者は北海道なので、北海道がこの3校をどうするかということはできます。今、蘭越高校については、今年の志願者が一桁だったので、来年も一桁であれば再編の方向に行くと思います。倶知安農高については、農業高校という職業高校なので、倶知安高校とのすみわけはできているということで北海道としては判断できると思います。ただ、真狩高校、留寿都高校、ニセコ高校はそれぞれ町村が設置者になります。真狩は従来の農業一本からパティシエの製菓コースに活路を生み出したということですが、地元の生徒より札幌圏の生徒が多いようです。留寿都は以前から福祉で、4年生までいくと介護福祉士の資格をほとんど全員が取得できるということになっています。ニセコ高校は他の高校のスタンスも踏まえながら、どのような方向にいくかということです。町長は農業高校が競合しているという話をしますが、同じ農業高校でもそれぞれに特色が違っていると思います。ニセコ高校も農業高校と言いながら、農業後継者はほとんどいない状態です。

**越湖委員**：地元の農家さんの子どもが、後継者として入学している子はいますか。

**学校教育課長**：現在はいないです。実際に農業を目指している子は何人かいるようですが少数派で、農業を学ぶ農業高校ではなくて、農業というフィールドと教材を生かした人づくりの場を目指したいということもあります。

**教育長**：先生たちとの懇談の中でも、農業も観光も勉強する中で、英語の勉強を増やしていけば、2つのコースで良いのではないかという話もありました。

**下田委員**：他の班の様子がわからないので、このままでは参加者の話だけで終了ということなので、懇談会の総括的情報共有があればいいと思います。

**教育長**：それぞれのテーブルに記録者がいたので、先生たちがまとめたものをもう1回整理するという考えで、今作業をしているところです。

**学校教育課長**：時期的に年末ということもあり、作業が遅れている現状です。それぞれで感じたことを共有していただければと思います。

**下田委員**：ネガティブな意見で、今来ている生徒がニセコ高校を選んだ理由が、人間関係のチェンジであったり、入試がない、修学旅行で海外に行ける、給食が出るなどのインセンティブな部分が理由になっている子もいます。逆に、意識が高くていろんな取り組みが凄い学校だという思いで来られて、それぞれのギャップで苦しんでいる現場の状況もあるということもあるようです。その他に、スキーがしたくて来たのに、そんな環境ではなかったということもあるようです。

**大橋委員**：農業にしても観光にしても、英語はこれからニセコという土地柄強化していきたいということが先生方にもありましたが、倶知安高校が既にそのような方向に行っている中で、英語で特色を出しても選ばれる理由としては弱いのかとも思いました。

**越湖委員**：緑地観光科というネーミングから少しインパクトを変えていくという話も出ました。

**萬谷委員**：子どもにしてみると、ニセコ高校は学力が低いというイメージがあるようなので、全体の学力の底上げをして進学率を示すと、もっと地元で勉強できるということにもなって、子どもたちのイメージも変わるのではないかと思います。

**大橋委員**：普通科があれば良いという方もいました。

**越湖委員**：「農業」となると中身は違っても普通科にと思うのかもしれませんが。

**萬谷委員**：特進科があってもいいかもしれません。

**下田委員**：先日ニセコ中学校にお邪魔して、校長先生の話聞いてきましたが、きちんとした生活態度や進学校的な勉強をする環境というか向上心があって、ニセコ中学校とニセコ高校の連携の場面で、ニセコ高校の姿も見ていると思いますが、自分の進路と考えた時にちょっと違うと思うのは自然なことかと感じました。会社や組織であれば設置者のためのものですが、学校は子どものためのもので、ニセコ高校に入ってその先にどんな未来が描けるのかというのは、中学生のうちから考えていると思うので、未来を見られる学校にしたら良いのかと思いました。

**教育長**：蘭越高校も倶知安高校も普通科で、北海道立なので北海道のルールの中にあります。蘭越高校も地元の子に地元の高校へ行ってもらいたいのでいろんな支援をしています。ところが、行かないのはなぜでしょうかということ。倶知安高校は通えるから、倶知安高校を選びます。普通科という話もでましたが、ただの普通科では変わらないかもしれません。

**越湖委員**：町の大きさもつながるかもしれません。

**学校教育課長**：地元の子どもたちは今年6人ニセコ高校に進学するということなのですが、その子たちの受け皿が必要だということやどのようにとらえるかということかと思っています。

**大橋委員：**逆に進学はしたくないけど、就職をしたいという子のための学校という考え方もあるかと思います。

**学校教育課長：**進学をしたいという思いはあると思いますが、そこには実力や家庭環境もあって行けないということもある中で、先般視察に行った札幌新陽高校は特進や探究コースもあって、日常の教育を全部英語でやるようなクラスもありますが、国立大学への進学はあまりいません。その子どもたちは、自分の立ち位置がわかっていて、進学をしたいという場合は推薦や行きやすいルートを選択しています。そういう間口をニセコで考えた時になんだらうと思ったところです。

**萬谷委員：**ニセコ高校で推薦枠はありますか。

**教育長：**東京の方はないかもしれませんが、札幌国際大学や酪農学園大学はあります。以前、センター試験を受けたいという子がいましたが、学校の教育課程ではだめなので、放課後先生方が指導してくれましたがやはり厳しい部分もありました。

入学して来ている生徒の中には、中学時代は保健室登校だったが自分を変えたいということや、ニセコ高校が世界に目を向けた高校であるというところに興味や関心をもった子もいます。また、不登校でニセコ高校に来て、高校で先生たちと出会って自分は変わったということで、今は教員になりたいと頑張っている例もあります。必ずしも入学する時に物凄く志が高くなくても、ニセコ高校で育っている子は間違いなくいるので、その部分がニセコ高校の特色でもあり、人数は多く集まりませんが今持っている強みだと思います。

**越湖委員：**この温度をいかに伝えられるかですね。

**教育長：**教頭先生の農業という教材を通して人づくりを目指すというのは全く同感で、今の子どもたちが農業に触れる機会はないと思います。普通高校に行けば絶対にはないです。でも、3年間土を触って生き物を育てて、それが成長した物を味わうというところが、人づくりには欠かせない要素だと思っているので、ハイブリットは肯定派です。

**下田委員：**これから生徒を集めたいとか、地域からの進学者を増やしたいとかいうことで、今やっていることは素晴らしくて、いろいろな状況から立ち直ったというサクセスストーリーもありますが、だったらこのままで良いのではという議論になりがちなので、そこはどうなのかという議論で何年も話をしてきているところです。個人的な意見では、全く違う町から来て、ニセコに町立高校があって、国際的なリゾート地に位置する高校で、当然スキーリゾート地も近くにあって、英語とスキーで他の高校にはない立地的な環境を生かした教育をやっていると思ったのですが、そうはなっていないところもあったので、そこに特化していけば全国からも来たい子はいるだろうと思います。ただ、ニセコで生まれ育った子は、スキーをやることは当たり前なことなので、それが特色でその高校に行くかということになると、それはまた違う話かと思います。学校振興対策会議の目的にあるように、地域の職業人を育てる等の狙いはよくわかります。他の町から来た子が3年間を過ごして町外に行ってしまうということはあるかと思いますが、ニセコ地域の産業のための学校という設置者の思いが、時代とともに農業後継者は入ってきていないように思います。ただ、観光業界は全く人も足りていないし、まだまだ必要となっています。

ふるさと学習でニセコの状況について小中学生が勉強をしても、戻ってきて働いてくれれば良いとは思いますが。

**町民学習課長：**課内でニセコ高校の体育館の利用について話をする時に、ニセコ高校に求めるニーズと評価の把握についてはどうしているのか、教職員の考えや意見も聞きたいということは外からも聞こえている話です。また、ニセコ高校のそもそもの魅力という部分で、学力でいくのか若しくはスポーツでいくのかということで、家庭や学生はシンプルに将来につながればというところだと思います。進学校でないまでも、学力に関心がある人がいれば、臨時的にでも特進クラスをつくるということもあるのではないかと話もあるようです。高校の体育館の利用となれば、例えば部活で活発にやっているのであれば貸す余裕はないということもあるかと思えます。今回、アンケートをとるとのことなので、良いことだと思います。

**教育長：**アンケートの結果から、少なくとも中学生や親の見方が出てくると思えます。

**学校教育課長：**学力のくくりが難しいところですが、新しい学習指導要領で学力とはどういうことかという部分で、知識ではないということになっているかと思えます。ただ、今の学力かスポーツかということになると、テストの点数の学力に当てはまるのではないかと思えます。本人の持っている力は第三者が評価しづらいものなので、そういうところに着目をして、新しい評価の中では経験を評価しようというやり方になります。学校はこれまで知識を学ぶところでしたが、新しい学校は自分の経験を磨くところが変わっていくと思えます。ニセコ高校は、今ある素材が活用しやすい教材を持っているので、今の価値観ではニセコ高校を評価できないが、新しい価値観でいけば評価できる学校になるのではないかと思えます。

**町民学習課長：**どうしても、まだ社会的尺度としては点数や偏差値、スポーツ推薦等が現実的なので、いっぺんにはいかないと思えますが、単純な思考としてはあるかと思えます。

**学校教育課長：**そこにニセコ高校も追随するのか、全く外れるのかということです。

**教育長：**経営者している側やホテルにお勤めしている側としては、どのような若者を求めますか。

**下田委員：**ニセコ高校の卒業生を受け入れています。ニセコが好きな人材であれば採用したいです。地元愛があるので、地域のこともよく知っていて現地ガイドとしてはお客さんにも人気があります。そして、先輩を見て後輩も来てくれるので、非常にありがたいです。コミュニケーション能力は学力だけでは測れないです。ニセコ高校を卒業してガイドをしている子は、ニセコ高校で仕事の様子を授業でやっていたので、それも良いことだと思います。

**萬谷委員：**ニセコ高校の卒業生も入ってきますが、忍耐強くすぐやめることはないです。学生時代には成績が良かったにこしたことはないでしょうが、観光の仕事についてはコミュニケーション能力を持っている方が評価を得ています。

**教育長：**どこの高校を出ても、地域や社会に貢献できる人間でないといけないので、そこをどのように育てていくのかということで、ニセコエリアで活躍できる人材を育てる学校とすれば、大学進学を目指すコースではなく、人間力を育てる教育内容で、地域のために貢献する人材とそこには英語力は必要だと思います。

**学校教育課長：**ニセコ高校は長所がたくさんありますが、議論の中ではどうしても弱点をどうするかという話になってしまいがちで、実際に卒業生が活躍している事例もあつたりするわけなので、手法としてはその部分を積み上げていけば良いと思えます。今日、学校の先生たちを集めて、ニセコ小学校でプログラミング講習会を

開催していきまして、北海道から講師が来ていてそちらを見てきましたが、これまで5教科プラス情報という科目が大学の入試にも入ってそれが6教科に変わるといって、小学校から高校までつながった情報教育がないと今後は通用しないという話をしていました。英語と情報は確実にセットになるので、実践を積み上げていくのが理想的なのかと思いました。その時に、必ずしも大学を目指すという子ではなく、普通の子たちがしっかりと自分磨きができるということが可能なかと思いました。

**越湖委員：**不登校やいじめで学校に行けなくなってしまっている子が多かったり、入試は無試験なのでニセコ高校は入りやすいということはあるんですが、事例として頑張っている子がいるということの発信も重要なのかと思いますし、そのような子に目を向けるということのも一つの特徴なのかと思います。

**下田委員：**現実的に入学者数がどのくらい減ればどういうことが起こるのか、生徒を集めるということが課題でこの議論になっていると思います。少子化と言われる中で、現実的な運営経営の話はどうですか。

**教育長：**町の財政とすれば、ニセコ高校に要している経費と、国からの交付税のバランスが取れるのは30人以上ということですか。なので、今は町の持ち出しがあるという話です。

**学校教育課長：**公立学校の先生は営業に行っていないので、営業をするだけで数字には出るようです。直近の生徒を集めるのはおそらく対応できると思いますが、10年後20年後減っていった時にもつのかということになれば、この学校をどうデザインしてみなさんに理解をしてもらおうかということをしていかなければ続かないというところかと思っています。

**下田委員：**40名入っても辞めていることもありますし、これから40名が続いていたらこのままで良いというふうに思ってしまうですね。

**教育長：**生徒が減っているので40名は難しいと思います。人数は集めたいですが、人数だけではないところもあります。来年も全道的に見て卒業者数が減少しているので見通しは明るくないです。一部の高校を除いては入学者減というところだと思います。令和4年度に向けた教育課程は、今年のうちにある程度つくっておかなければいけません。

**学校教育課長：**なかなか進んだ感じはしないかもしれませんが、これまで共有されていない部分が多かったので進まなかったと思います。時間をかけながら積み上げていかないと、着地点は探れないのかと思います。

**下田委員：**現実的に農業高校からの脱却となれば、技術的にもかなりのハードルがありますか。

**学校教育課長：**新設校を作るので、それだけの財政力が地域にあるかということになるので、教育委員会だけでは判断できないと思います。

**教育長：**教育課程を全部変えるので、教員も変えなければいけないです。三笠高校のような科にすると、専門の先生を呼んでこななければいけなくなるので、その経費は持ち出しになります。

**下田委員：**農業高校からの脱却は現実的ではないということですか。

**教育長：**かなりの年数もかかると思います。

**学校教育課長：**教頭先生のような発想がありだと思っています。カリキュラムの組み方なので、

観光は商業をベースにしているので簿記をやっていますが、実際今簿記の授業は商業科でもいらなと言われていた時代なので、先日の話でも簿記はやめましようという話もありました。そこでカリキュラムを組み替えていけば、まだまだやれることがあるのかもしれませんが。ただ、農業高校であるがゆえに、プロジェクトの時間や農業の実習の時間は残さなければいけないということなので、そこをどう組み込むかというところです。

**教育長：**農業高校のうちプロジェクト活動や農業クラブの活動は必ずあります。放課後の英語の活動に力を入れたいという話もありますが、放課後はプロジェクト活動にかかっているようです。

**下田委員：**町長はハイブリットではなく新設をという思いですか。

**学校教育課長：**町長は自身の考えを述べているところです。

**下田委員：**相当お金がかかる現実的でないこともわかってのことですか。

**学校教育課長：**わかりません。ただ、そのあたりも、教育委員会で片手間にはできないことなので、スタッフも含めて体制をとってほしいということで要望している中では厳しいとされているところです。であれば、町側でやってくださいということで提案したいと思っています。そのためには、教育委員会としてどのような考えをもっているのかということをお伝えしなければいけないので、イメージをもって町に提案したいと思います。

**教育長：**昨年の総合教育会議でもありましたが、教育委員会としてニセコ高校についてどのようにしていきたいのかということをお提案してほしいということです。

**越湖委員：**海外の方で日本語ができなくても、通訳にALTや翻訳専門を頼んで、そのような人も増やしていくことで、日常的にコミュニケーションをとりながら英語の強化につなげる学校ということもあるかと思います。地元の子を増やすということはもちろんですが、ニセコで3年間を過ごしたことによってニセコに住みたいと思う子も増えてくると思います。そうするとインターナショナルなニセコというイメージがあるとすれば、そういう方向からもいけるかと思います。現実としてインターナショナルスクールともしっかりコミュニケーションがとれないかと思った時に、場所が離れているので難しいということもあるので、同じ年の子が他の国から来て一緒に授業で学んでいける学校づくりも良いと思います。ハーフの子もいますが、本当に日本語が話せない人も住んでいるし、もちろん日本語ができる子は受験できますが、できない子でも配慮できるようなニセコ高校の特色としてもつながっていければと思います。

**教育長：**今日の結果をまとめまして、総合教育会議の前にはまた議論したと思います。その頃には、アンケートの結果も出てくると思いますので、それをもとに議論も深まるのではないかと思います。

#### ○学校ICTについて

**下田委員：**端末を触る時間が物理的に増えるということなので、家でもスマホをやって学校でもというところに心配はあります。ニセコ高校で環境がないのにタブレットを入れるというのは焼け石に水という感じもしますが。個人装備だと大事にするし管理も楽になるので良いと思います。

**学校教育課長：**スマホルールを作りましたが、結局学校では子どもにはいろいろ教えますが、親には教えない。今一番問題なのが、親の世代がICTに明るくないという

ところなので、CSで保護者に対しての学習会を考えてほしいというところをお願いしています。そこでバランスをとっていかないと、問題が発生する原因になるのではないかと考えています。

教育長：環境整備は当然していかなければと思っています。

学校教育課長：整備計画を整理して、再度提示させていただきます。

教育長：その他連絡事項等ございませんか。

・・・(町民学習課長からニセコこどもスキーフェスティバルについて説明)・・・

教育長：この際ですので、各委員から何かございませんか。

・・・(なしの声)・・・

教育長：以上で、第10回教育委員会議臨時会を終了いたします。ご苦労様でした。